

～おおいしだかとんとむがすあつたけど④～

『創作むがす』

カツパのひだり

織江祐智作

《前編》

むかしむかし、おまえのおじいさんのおじいさんの、そのまたおじいさんの頃なれ。最上川の爆巻にはカツパが住んでいて、いろいろいたずらすんなだけど。たいしたいたずらではないのだげんと、ちょっとでもされた人は、それを何倍も大きさに言うものだから、口から口へと伝えられていく間に、カツパに川に引きずり込まれたとか、カツパが子どもを食べていたとか、ありもしない話になつて語られるのだけど。人々はカツパを恐れて悪者にするから、カツパも面白くなく思っているんだけど。

ある時、もう冬が来て雪が吹雪いていた夕方、おじいさんのそのままおじいさんが、門徒の家さお経読みに行つた帰りのことだけど。馬に乗つて桜畠まで帰つて来たら、突然馬がヒビーンと鳴いて立ち上がつたど。おじいさんは振り落とされそうになりながら、

「ふへ、ふへ。」

と馬をなだめてふと前を見ると、吹雪の中に子どもみたいな蓑毛ボズン（スゲを編んで作った昔の防寒具）をかぶつたものが立つていたんだと。なえだ今頃、がきわらすがこだな天気のどよど思つて、

「ほれ、よげろよげろ。馬にはねられんべな。」

と声をかけたげんと、子どもはさつぱり動かねけど。馬はピン

ヒンあばれるし、仕方ないから馬からおりて
「ほれ、よげろ。あぶないべな。」

といいながら、手に持つてムチでヒヨイと蓑毛ボズンを上

さあげで見てびっくりしたど。その子どもの顔は目も鼻も口もない、ゆで卵のようなツルリとしたのつぱらぼうだけど。
「ありやつ。」

とたまげていると、その子どもはケラケラケラケラと笑つて、最上川の方さ走つて行つたんだと。ああ、これがカツパのいたずらなんだなあと、おじいさんは思つて寺さ帰つて来ただけど。

その夜、おじいさんは夕食を済ませて一人でお茶を飲んでいたど。寒い夜だなどぐるりに焚き木をじつわらべて、あたまつていたけど。しばらくしたら、お寺の納骨堂の方からカラランカラランという音が聞こえてきたど。何だべな、こだな雪の夜に猫でもあるまいと思つていると、カラランカラランと廊下を渡つておじいさんの所まで來たど。戸の外で
「お住持いるか。ノコノバーメだ。」
と、カンカラ声でいつたど。

（へへへ）

○出典『大石田のとんとむがす』
(大石田とんとむがすの会編集・発行、110一九年)

大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を受け取ることができます。

友だち登録をお願いします！

登録方法
右の二次元コードを読み取って友だちに追加してください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を
電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和7年12月1日現在		
世帯数	2,189戸	(-2)
総人口	5,758人	(-6)
男	2,874人	(-2)
女	2,884人	(-4)
(11月中の異動)		
出生	2人	転入 8人
死亡	12人	転出 4人

※この人数は外国人も含めたものです。